

長野県革新懇ニュース

2018年10月号
発行日10月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971

233

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 田中夏子さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊 小平千文さん
- 3面 沖縄知事選の支援に参加して 坪井一憲さん 読者の声
- 4面 随筆『雨よ降り』『潜伏キリシタン』 窪島誠一郎さん 本の紹介『日本ナショナリズムの歴史』 漢字パズル

長野県革新懇

検索



協同組合間の連携を強め

その公共的役割の発展を

田中 夏子 さん

(日本協同組合学会会長)

人間が大事にされる
働き方を探して…

Q 協同組合運動に関わる経緯と、高齢者生活協同組合についてお聞かせください。

これまで、働く者が出資し、管理、運営も担う労働者協同組合について調査・研究してきました。その理由は、もう30年以上も前になります。が、私自身の新入社員時代の体験によるところが大きいんです。

就職先は大手の都市銀行でしたが、女性行員の位置づけや定期預金獲得等のノルマ競争等に疑問を感じていました。それに対して労働組合も機能不全で、「なぜなのか」という思いがありました。反面、どんな単純労働でも、やっていくうちにそこに創意工夫

や連帯を生み出す労務管理の手法、QC活動が浸透している、私自身、慣れっこになっていく感じもありました。そんな経験から、「労働疎外」について学びたいとの気持ちで、1年で退職し、大学院で勉強を続けることにしました。

その後、1986年に男女雇用機会均等法が施行されましたが、以前の職場で89年に女性行員が長時間労働によって過労死する事件がありました。そんなことも契機となって、今という「ディーセントワーク」ですが、そうした労働を実現できる事業組織や、労働者自身が経営を担う経済活動のあり方に興味を持ち、当時はまだ珍しく、評価も分かれていた労働者協同組合の研究に携わるようになったわけです。ですから協同組合に関わるきっかけの入り口は労働運動としての協同組合づく

りでした。

働く者と利用者が つくる高齢者生協

私が今、理事として携わっている長野県高齢者生活協同組合は、「生協」という性格に加え、労働者協同組合という2つの組織的特徴を兼ね備えています。

高齢者生協は、もともとは労働者協同組合のメンバーが仕事の第一線から退いても、孤立せずに地域活動に参加したり、小規模な仕事に取り組み場が必要だとの思いで生み出された組織です。組合員総数は全国で約5万1000人ですが、強力な全国組織が主導するのではなく、それぞれ

の地域で独自の設立経過があり、地域ごとの社会的ネットワークと課題意識に依拠して活動が行われています。

長野県では、県内の生活協同組合、労働者協同組合、厚生連、労働組合などの非営利組織が10年間交流を重ねてきた末に1996年、初代理事長に若月俊一さん(佐久総合病院元院長)を迎えて設立されました。2000年から介護保険制度に基づく介護サービスを開始して、長野市、松本市、佐久市、下條村にそれぞれセンターを設け、地域福祉事業、生活支援事業、交流施設の実施、配食事業、「終活」事業を実施しています。

現在、組合員数は3900名で、その中でフルタイム、パートタイム合わせて約160名の皆さんが働いています。通常の生協と異なるのは、利用組合員と働く立場の組合員が共同して創り上げる組織だという点です。その分、運営は複雑ですが、両者が集う相乗効果も大きいと感じています。

こうした事業を通じて感じることは、高齢期の市民の生活の大変さです。配食事業で届けたお弁当を2回にわけて食べている方、毎日のお届けを2日に1度にしてほしいなど、経済的な苦勞が垣間見えます。また頼ろうと思ってもご近所の皆さんそれぞれが大変な状況になってくれば、もう少し広域で多様な方々との関わりの中での支え合いが必要になります。そうした支え合いを、組合員活動を通じて、下からつくっていくというのが、高齢者生協のねらいです。

ディーセントワークの
実現めざす協同組合

Q ご専門が労働者協同組合論とこのことですが、どのような内容でしょうか？

協同組合というと、農協や生協が思い浮かびますが、その他、森林組合、協同金融、漁協、中小企業等協同組合等、私たちの生活の様々な領域にわたって存在しています。生活協同組合というカテゴリーの中にも、食や生活用品の共同購入だけでなく、医療生協、高齢者生協のような福祉生協、住宅生協等、多様です。しかし、働く者が出資し、管理・運営するという、労働者協同組合というのは、実態はたくさんあるものの、法人制度としては存在していません。

先程お話ししたように、「ディーセントワーク」を労働者自身の手で実現する職場づくりに関心があったので、この労働者協同組合について、海外の制度や実態を含め、勉強してきました。また、日本で同様の取り組みをしている団体と、こうした働き方をめぐる困難や課題等を共同研究してきました。

その過程で、イタリアで様々な形で小さな、しかし重要な役割を果たしている「社会的協同組合」という

イタリア シチリア島のカタニヤ市にある、社会的協同組合



●自分たちで出資をし、自分たちの管理、運営をするシチリアの「社会的協同組合」Sisifo(シジフォ)のスタッフたち。

●高齢者、心病人々のグループホームや仕事起こしに取り組みかたわら、反マフィア運動も展開

公共的な領域の市場化に抗して

現在、政府は「効率化」「成長産業化」「競争力強化」の

Q 今日的情勢ともかかわって協同組合の果たす役割についてはいかがですか？

【2面に続く】

存在に出会いました。社会から排除されたり、差別されたりする人々自身が、担い手となって、事業組織を構成し運営していることにも感銘を受けました。行政がその取り組みを支援する仕組みもきちっと整っていることが驚きでした。ハ

ンデイのある人々の社会参加や労働参加を保障する制度環境について日本との比較研究を行ったり、実践家たちと現地交流して、日本での活かし方を考えるといった作業をしてきました。